

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで簡条書きに
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神, 教育理念, 使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	<p>※表1「個人面接 年間面接回数」、表2「大学院生臨床実習状況」、表3「相談料収入」、表4「臨床心理士資格試験合格者数」、表5「個人面接紹介元」、表6「集団療法年間参加人数」、別途「表」シート参照</p> <p>心理臨床センターは、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の学生の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、修了生を対象とした卒業教育にも力をいれ、現場で活躍できる臨床心理士を育成する教育活動を行うとともに、臨床心理学的諸問題にかかわる相談・援助活動及び調査研究を行って社会貢献を果たすことにより、本大学の教育・研究に貢献することを目的としている。</p> <p>なお、心理臨床センター規程【1-35-1 第2条】において理念・目的を定めている。</p> <p>文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修前期博士課程、後期博士課程の学生の臨床心理実習については、学生が研修相談員として専門相談員の初回面接の陪席、専門相談員の指導を受けながら実際の個人心理面接及び心理検査の担当を行っている。2014年度は、センター全体の面接回数が3403回と増加したのに伴い(表1)、学生の担当できる回数も増加し、初回面接の陪席を62回、心理面接や心理検査の担当を862回行い(表2)、臨床心理実習の場として大学院教育に貢献した。この成果については、学生が修了後に受験する臨床心理士資格試験に於いて、2014年度は受験者11名中10名が合格と全国平均を大きく上回った合格率となり(全国合格率60%)、これまでの修了生72名中71名が資格を取得していることから裏付けられている(表4)。さらには、修了生も研修相談員として受け入れたり、修了生を対象とした事例検討会を行うなど、卒業教育にも力を注いでいる。この中で、2008年より修了生の臨床心理士合格者による「明治大学臨床心理士会」が発足し、その事務局をセンターに置くことにより、臨床現場で活躍する修了生の知見をセンターの相談活動や教育活動に還元したり、現役の学生との交流を図ることができている。</p> <p>相談・援助活動においては、個人心理面接回数が表1のように年々増加し、2014年度は3,403回と大幅に増加した(表1)。それにより相談料収入も増え、2014年度は11,375,060円の収入となった(表3)。また、近隣の大学病院を始め外部の専門機関からの紹介される来談者が多いことから(表5)、センターの存在が社会に周知され、地域に開かれた心理相談機関として大学の持つ臨床心理学の知見を社会に還元し、社会貢献を図っているといえる。</p> <p>さらに、2014年度は、10年間の相談実績から得た知見を社会に還元し、関係機関との連携の強化を図るため、10周年記念行事を開催した。加えて、研究機関としても、年1回紀要「明治大学心理臨床学研究」【1-35-2】を発行し、相談活動を基に研究の成果をまとめ、心理臨床の専門機関に配布し、研究成果の還元を行なっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学生に実践的な教育を行った成果として、2014年度の臨床心理士資格試験の合格率は91%(全国平均60%)であり、これまでの本学修了生の99%が臨床心理士資格を取得している(表4)。 ・面接回数の増加に伴い、学生が陪席できる数も増加し、面接や心理検査の担当を行う回数も増加した(表2)。学内の臨床心理実習の場が有効に機能していることにより、実践的な教育を丁寧かつ着実に進めることができ、大学院教育の強化に貢献している。 ・面接回数が3,403回(前年比11%増)となり、大幅に増加したことから(表1)、地域に開かれた心理相談機関として根ざしてきており、社会貢献を果たしているといえる。外部の専門機関からの紹介も多く、心理臨床センターの存在が社会に周知されてきている。 ・相談料収入も11,375,060円と増収となった(表3)。 ・2014年度は10周年記念行事を開催、約300名の参加者があり、アンケート結果【1-35-3】をみると、内容の評価は高く、「この行事によって初めてセンターの存在を知った」参加者が多く、外部専門機関との連携を強化を図ることができた。 ・修了生を対象とした事例検討会を行うことにより、卒業教育・修了生の所属する関係機関との連携・大学生に対する教育効果をあげることができた。 ・修了生によって組織された「明治大学臨床心理士会」との交流を密に行うことは、臨床活動に生かされ、学生との交流に 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が十分な研修(1人週2回の面接を担当・計年間1200回程度)を行うための個人心理面接の目標回数を3200回としていたが、2014年度は目標数を超えたにもかかわらず相談者の承諾を得られる割合が25%と予想数より低く、学生の担当数がまだ不足しており、目標回数の見直しが必要である。 ・面接数の増加に伴い、相談員が面接を担当する時間数が増え、学生の指導にかけられる時間が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標面接回数を3600回に修正する。 ・年度計画等で策定してきた結果、2015年度夏に改修工事が行われ、面接数2室が増設される。2015年度は、工事による休室期間があるため目標回数達成は難しいが、2016年度には目標面接回数が達成される見込みである。 ・学生の指導時間を確保するため、年度計画で相談員(特別嘱託)の時間増を策定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専任の相談員を増員することを今後の年度計画で検討し、改善を図る。 ・外部関係機関にまで範囲を広げて、事例検討会や連携会議を企画する。 ・明治大学臨床心理士会との共催の研修会等を計画していく。 	<p>1-35-1 明治大学心理臨床センター規程 第2条 1-35-2 紀要「明治大学 心理臨床学研究第11号」(編集中) 1-35-3 明治大学心理臨床センター開設10周年記念行事アンケート結果</p>

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
		よって教育的な効果も高い。 ・センターで行なわれた相談活動を基にした研究成果を紀要としてまとめ、年1回発行している【1-35-2】。				
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	① 学生に対する周知方法と有効性 臨床実習を行う学生に対しては、年度初めのガイダンス及び毎週行われるカンファレンスにおいて周知を図っている。 ④ 社会への公表方法 心理臨床センターの相談活動や集団療法について大学のホームページ【1-35-5】で周知を図っている。さらには、リーフレット【1-35-6】を関係機関【病院や相談機関、小・中学校など】に配布したり、アカデミーコモン前にセンターの看板を設置することにより、社会への周知を図っている。 また、2014年7月に開設10周年記念行事を行い、関係機関等にポスター等を送付し、センターの活動の周知を図った。	・2014年度は10周年記念行事を開催、約300名の参加者があり、アンケート結果【1-35-3】をみると、「この行事によって初めてセンターの存在を知った」参加者が多く、内容の評価が高いこととも合わせ、外部専門機関にセンターの活動をアピールすることができた。	・相談事例の紹介や10周年記念行事を通して関係機関との連携は強化されてきたが、まだ学内外へのセンターの活動の周知が不足している。	・ホームページ上に理念・目的を明示する。 ・学内教職員や学生を対象として、相談活動から得られた知見を元にしたセミナーなどを企画、2015年度に試行できるよう計画する。	・学内向けセミナー 2015年度の試行結果を検討し、継続的に実施できるよう年度計画で策定していく。	1-35-4 心理臨床センターホームページ http://www.meiji.ac.jp/ccp/index.html 1-35-5 明治大学心理臨床センターリーフレット 1-35-6 心理臨床センター10周年記念行事案内
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	相談活動や院生の実習実績については、大学から選任された教員によって構成されている運営委員会において定期的に報告と審議が行われており、厳密な検証がなされている【1-35-7】。					1-35-7 運営委員会議事録
(I-2) 理念・目的に基づいた特色ある取り組み						
	心理臨床センターに来談者を紹介する精神科クリニックなどの他機関が次々と現れ(表5)、社会的な認知、地域におけるネットワークへの位置づけが次第に進んでいる。心理臨床センターにおける学生の臨床心理実習の充実ぶりは大学院志願者の重要な選択要因となり、志願者は毎年12~14倍となっている。社会的貢献の点でも、大学教育的観点からも、センターは本学の特色ある機関と認知されつつある。 さらに、個別の相談だけでなく、集団療法として小学校、中学、高校教員対象の2グループ、外部の心理援助職対象のサイコドラマスクール、児童福祉施設職員対象の2グループを実施している(表6)。学校教員のメンタルヘルスは近年たいへん悪化しており、教員対象のサポートグループは大きな意味を持っている。さらに、児童福祉施設職員への援助は、近年児童虐待等の問題が大きくなる中で、その支援体制づくりの整備や支援者のスキルアップに寄与する取り組みを行うことは社会的にも非常に重要な役割を果たしていると言える。このように、一般の相談者の相談のみならず、臨床心理学的知見を外部の専門家に対して還元していくことは、心理臨床センターの目的の一つである社会貢献に資する取り組みである。 さらに、2014年度7月には、地域の心理援助の専門家を対象とした10周年記念行事として現代の子どもの心の問題をテーマとして講演及びシンポジウムを開催し、これまでの相談活動から得た知見を社会に還元すると共に関係機関との強化も図った。					

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか							
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	心理臨床センターは、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の学生の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、修了生を対象とした卒業教育にも力をいれ、現場で活躍できる臨床心理士の育成を図っている。 運営組織としては、センター長、副センター長2名、学内運営委員15名によって運営委員会が組織されている。センターの実務的運営については、センター長、兼任相談員（大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修担当の専任教員）7名、専門相談員5名（専任職員1名、特別嘱託4名）によって構成される担当会議で検討されている。 大学院生が修了後に受験する臨床心理士資格試験において、2014年度までに修了生72名中71名が合格し（全国合格率60%）、開設目的に沿った形で実を結んでいる（表4）。さらに、一般の方々の心の健康に関する悩みや相談を受ける機関であり、子どもから大人まで、広く相談を受けている【2-35-1】。相談・援助活動において、センター長、兼任相談員、専門相談員によって相談を行っており、面接回数は年々増加し、2014年度は3,403回と大幅に増加し（表1）、学生の担当できる回数も増え、教育機関としてより充実した機関になっている。	・教員以外にも相談業務専従の専門相談員が実際の相談業務や学生の指導に携わることによって、相談機関や臨床重視の場としての質を高めることができ、それによりこれまでの修了生72名中71名が臨床心理士資格試験に合格している。 ・面接回数増加から、地域に開かれた相談機関としてセンターの社会的認知は着実に進んでいるといえる。	・この領域では明治大学は後発大学であり、ネットワークはまだ十分とはいえない。 ・2013年度から担当会議に参加できる相談員を5名中3名に増やすことができたが、2015年度も未だ全員参加できるような勤務体制にはなっていない。		・担当会議に相談員が全員参加でき、学生の指導に十分な時間が取れるよう、特別嘱託の相談員の時間増を年度計画で策定していく。	学生指導の充実のためには、特別嘱託の相談員の増員では対応できない部分があり、専任の相談員を増員することを今後の年度計画で検討し、改善を図る。	2-35-1 明治大学心理臨床センターリーフレット《既出1-35-5》 2-35-2 紀要「明治大学心理臨床学研究第11号」2014年度活動報告（編集集中）《既出1-35-2》
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか							
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	担当会議、運営委員会において教育研究組織の適切性について検討を行っている【2-35-3】 【2-35-4】。	センターの運営について、他学部教員などの多角的な見地からの意見をj得て検討を行うことで、より客観的な検証が行われている。専門外の運営委員に、委員会開催時以外にも紀要や相談統計の配布に加え、2014年度は10周年記念行事や明治大学臨床心理士会などのセンター行事へ参加を求めたことにより、業務内容への理解が深まり、その上で委員会で課題の検討を行うことができた。	運営委員へのセンター行事の案内や、報告はまだ試行段階で十分とは言えない。		運営委員会の開催以外にも、定期的に運営委員に相談に関する資料等を配布したり、現状や課題について報告する機会を設ける。	担当会議の充実や運営委員への働きかけを充実するためには、特別嘱託の相談員の増員では対応できない部分があり、これらの業務を担当できる専任の相談員を増員することを今後の年度計画で検討し、改善を図る。	2-35-3 運営委員会議事録《既出1-35-6》 2-35-4 担当会議議事録

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか							
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】	学習成果を高めている組織として「心理臨床センター」による臨床心理士養成のための支援は特筆される。同センターでは大学院文学研究科臨床人間学専攻の「臨床心理実習」を支援し、学生は専門相談員の指導を受けながら、2014年度は、初回面接の陪席62回、面接や心理検査の担当862回行い、センター全体の面接回数の確保の努力(2014年度は3,403回、前年比13%増)に伴って陪席・担当回数も増加した【4(4)-1-3】。その結果、臨床心理士資格試験において、2014年度には受験者11名中10名が合格し(全国合格率60%)、過年度の実績も、2012年度合格者受験者11名全員が合格、2013年度受験者10名のうち合格者9名と高い水準を保っている。2006年度に博士前期課程修了生を輩出して以降の修了生71名(72名中)が合格している。なお、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修は日本臨床心理士認定協会指定大学院(第1種)である【4(4)-1-4】(センターの概要については基準8を参照)。	心理臨床センターによる大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の学生を臨床心理士に養成するための支援として、臨床心理実習に力をいれ、学生は研修相談員として実際の面接及び心理検査を担当している。センター全体の面接回数確保の努力により2014年度は3,403回(表1)と学生の実習に必要な目標面接回数に達し、それに伴って学生の担当できる回数も増加した(表2)。この実習の充実の結果、臨床心理士資格試験において、2014年度には受験者11名中10名が合格した(全国合格率60%)。過年度の実績も、2012年度は受験者11名のうち11名全員が合格、2013年度合格者受験者10名のうち合格者9名と高い水準を保ち、これまでの修了生72名中71名が資格を取得し、大学院学生の臨床実習機関として有効に機能し、大学院教育の強化を図り、高い次元で学習成果を達成している(表4)。	・学生が十分な研修を行う(1人週2回の面接を担当・計年間1200回程度)ための個人心理面接の目標回数を3200回としていたが、2014年度は目標数を超えたにもかかわらず相談者の承諾を得られる割合が25%と予想数より低く、院生の担当数がまだ不足しており、目標回数の修正が必要である。		・学生担当数確保のため、面接目標回数を3600回に修正すると共に、学生担当の承諾を得られる割合を35%まで上げられるよう、来談者への説明方法を検討し積極的に提案する。 ・年度計画等で策定してきた結果、2015年度夏に改修工事が行われ、面接1室、検査室1室が増設される。2015年度は、工事による休室期間があるため目標回数達成は難しいが、2016年度には目標面接回数が達成できる見込みである。	・目標回数3600回を達成させた後は、ケース検討体制(院生指導・カンファレンス)の強化を行い、相談技術の水準を向上させ、よりよい教育活動及び相談活動を目指す。	4(4)-35-1 明治大学心理臨床センターリーフレット《既出1-35-5》 4(4)-35-2 紀要「明治大学心理臨床学研究第11号」2014年度活動報告(編集集中)《既出1-35-2, 2-35-2》 4(4)-35-3 平成21年度大学院指定専攻コース実地視察評価について、大学院研究科専攻指定継続承認について(財団法人日本臨床心理士資格認定協会)

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか							
a	● 学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を、当該大学の理念、目的を踏まえて、定めているか。	心理臨床センターが持っている学生の臨床心理実習機関としての役割及び心理相談・治療機関としての役割を効果的に行うための施設・設備を備えること。					
(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか							
a	● 方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	センターには、心理相談・治療を行うために、3面接室、2プレイルームがある。これらの部屋は、心理相談・治療を行うに相応しい環境が整備されている。しかし、面接回数が増加する中、相談者の希望が多い曜日や時間帯は面接室が不足したり、そのために申込を断らざるを得ない状況も発生している。また、心理検査専用の検査室が無いために面接室を代用してしのいでいる。 また、個人面接以外にセンターの活動として行われている集団療法を行うための専用の部屋がなく、毎回会議室を借りて集団療法を行っている【7(1)-35-1】。さらに、学生が臨床実習記録を作成したり、カンファレンスを行ったりするスペースが無く、スタッフルームを定員超過ながら使用して面接などの業務に支障が出るという課題もある【7(1)-35-2】。 これらの課題は、C地区跡地整備計画の中で検討され、2015年度に院生研修室と面接室及び検査室、2017年度に集団療法室設置が予定されることにより改善が見込まれている。 プレイルーム内の遊具などにより、来談している子どもが怪我をすることがないように、柱などへのマットの設置をおこない、遊具の点検などを行っている。また、プレイルームや面接室については、大学による清掃に加え、使用後に定期的に職員や学生が清掃を行っている。 さらに、センターの来談者の中には、衝動のコントロールが未熟な者もあり、面接中に激こうしたり、暴力的になる可能性がある者もいる。そこで、職員や学生の安全のため受付及び各面接室の防犯ブザー及び各部屋からの連絡を受付で確認するための電光ボードを受付に設置している。	・面接室、プレイルームは心理相談・治療を行うための条件が整っており、学生の臨床実習に役立っている。 ・これまで課題であった院生研修室、検査室、面接室の不足が、2015年度夏に予定され、拡張工事により改善される見込みとなっている。 ・防犯ブザーが、受付及び各面接室に設置され、学生と職員が安全に面接を行える環境が整備された。	・拡張工事による休室期間や仮移転先での面接実施期間など一時的に相談活動を休止・縮小せざるを得ず、相談活動に支障が生じる。 ・相談活動の休止・縮小は、再開後に相談申込数が減少するなど今後の相談活動に影響を与える可能性がある。 ・集団療法を行う専用の施設については、2017年度に工事が予定されているが、現在の相談業務は課題を抱えながら行われている状態のため、一日も早い実現が望まれる。	・拡張工事が相談活動に与える影響を最小限に留めるよう、移転作業や仮移転中の相談活動について計画し、来談者にも周知を図る。 ・休室期間、開室時期について相談者や関係機関に対し、HPや通知文送付により周知を図る。 ・集団療法を行うための専用の部屋の整備が一日も早く実現するよう担当部署と調整する。	拡張工事に向け、設備を有効に生かすよう集団療法など事業の展開を計画する。	7(1)-35-1 集団療法実施計画表 7(1)-35-2 カンファレンス実施計画表 7(1)-35-3 2015年度教育・研究に関する年度計画
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか							
a	● 学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制を備えているか。 ● 教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	センターが持つ学生の心理臨床訓練の場としての機能を果たすために、臨床心理学専修の学生がセンターで研修を受けている。学生が臨床実習記録を作成したり、カンファレンスを行ったりする研修室の設置は「日本臨床心理士資格認定協会」が「一種指定校」の条件として求めているものであるが、現在はセンター内にそのスペースが無い。また、クライアントに心理検査を実施することは学生にとって重要な臨床実習となっているが、現在は心理検査専用の部屋が無く、面接室を代用して実施している。これらの課題は、C地区跡地整備計画の中で検討され、2015年度に拡張工事が計画され改善が見込まれている。	・拡張工事により、研修室及び心理検査に適した環境の検査室ができ、教育の充実が図れる予定である。	・院生研修室が有効に活用できるような活用計画が必要である。また、使用にあたっての明確なルールを作成し、学生に周知する必要がある。	・院生研修室が有効に活用方法できるよう、カンファレンスが充実するような回数や内容を計画する。 ・個人情報の取り扱いや使用時間などについて明確なルールを作成し、学生に周知する機会を設ける。		
(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか							
a	① 研究倫理に関する学内規程の整備状況 ② 研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性	学生は研修のために、相談者についての記録を作成しているが、個人情報保護の観点からそれらの記録をセンター外に持ち出すことは禁じている。 事例研究の成果の発表にあたっては、その性質から相談事例の内容をある程度公開せざるを得ないが、個人情報保護の観点から公開に当たっては相談者の承諾が必要である。承諾については、承諾書に相談者の署名を求め、確認を行っている【7(1)-35-4】。	・2015年度夏に拡張工事の設計について、担当部署と調整の結果、院生研修室がセンターと内部でつながり、実習記録等を個人情報を守られる構造にすることができた。				7(1)-35-4 紀要掲載承諾書

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか							
a	●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	地域に対しては、ホームページ【8-35-1】や雑誌の広告などによって、大学の持つ臨床心理学的知見を還元するため地域に開かれた相談機関を開設していることを明示している。外部の専門機関に対しても、リーフレット【3-35-2】の配布や紹介状などの授受を通して協力方針を明示している。					8-35-1 心理臨床センターホームページ http://www.meiji.ac.jp/ccp/index.html 8-35-2 明治大学心理臨床センターリーフレット
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか							
a	○心理臨床センターの社会サービス活動、社会への還元状況 ※加えて、受講者アンケートや外部評価委員会による評価など検証の仕組みがあれば追記してください。根拠資料を検討ください。	<p>心理臨床センターは、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、臨床心理学的諸問題にかかわる相談窓口・援助活動によって社会貢献を図っている。心理臨床センター長を責任者として「心理臨床センター運営委員会」が事業計画や相談活動の評価等を行っている。</p> <p>センターにおける心理相談は、兼任相談員（大学院文学研究科臨床人間学専攻専任教員）7名、専門相談員5名（専任教員1名、特別嘱託4名）によって行われ、面接回数は年々増加して2014年度は3,403回と大幅に増加し(表1)、臨床心理学の立場からの専門的な相談活動を実施している。面接回数が増加した背景には、近隣の大学病院を始め外部の専門機関からの紹介で訪れる来談者が多い点が挙げられる(表5)。さらに、小・中・高等学校の教員や心理的援助の専門家、児童福祉施設職員を対象とした集団療法も行っており(表6)、大学の持つ臨床心理学の知見を社会に還元しているといえる。</p> <p>文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の臨床心理実習については、学生は研修相談員として専門相談員の指導を受けながら実際の面接及び心理検査の担当を行っている。2014年度は初回面接の陪席を62回、面接や心理検査を862回行い(表3)、この成果として、学生が修了後に受験する臨床心理士資格試験において、2014年度は受験者11名中10名が合格し(全国合格率60%)、これまでの修了生72名中71名が2014年度までに資格を取得している(表3)。さらには修了生を対象とした研修会を実施して卒業教育を行うことにより、社会で活躍する臨床心理士の支援という社会貢献を果たしている。</p> <p>また、センターの活動は、ホームページで周知しているおり【8-35-3】、リーフレット【8-35-4】を病院や心理相談機関、小・中学校等に配付した。また紀要「明治大学心理臨床学研究」【8-35-5】を年1回発行して心理臨床専門機関に配付し、相談活動の実績と相談活動を基にした研究成果を還元している。</p> <p>さらに、2014年度7月には、10年間の相談実績から得た知見を社会に還元し、関係機関との連携の強化を図るため、地域の心理援助の専門家を対象とした10周年記念行事として現代の子どもの心の問題をテーマとして講演及びシンポジウムを開催した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面接回数が3,403回と増加したこと(表1)、地域に開かれた心理相談機関として根ざしてきており、社会貢献を果たしている。外部の専門機関からの紹介も多く、心理臨床センターの存在が社会に周知されてきている。 ・2014年度は10周年記念行事を開催、約300名の参加者があり、アンケート結果【資料8-35-6】をみると、内容の評価が高く、センターの相談活動の質の高さを示すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度は改修工事のため相談活動の一時休止(新規相談受付の一時休止と2週間の休室)が予定されており、それにより相談者の紹介元である関係機関との連携が中断しないように計画していく必要がある。 ・継続的に講演会などを企画していくには、人員や予算が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事による相談活動の一時休止について、事前に関係機関に通知する。また、休止期間終了に向け、通知やパンフレットの送付などをしていく。 ・今後の講演会企画のため、試行として学内向けセミナーの実施を年度計画で策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に向けた講演会などの企画を今後も定期的に計画していく。 	8-35-3 心理臨床センターホームページ (http://www.meiji.ac.jp/ccp/index.html) 《既出1-35-4》 8-35-4 明治大学心理臨床センターリーフレット《既出1-35-5》 8-35-5 紀要「明治大学心理臨床学研究」(第11号)(編集中) 《既出1-35-2》 8-35-6 明治大学心理臨床センター開設10周年記念行事アンケート結果《既出1-35-3》
	(検証システムと改善実績)	検証システムとしては、第1に、毎年の心理臨床センター自己点検・評価で現状を把握し、改善を行っている。心理面接という特殊な活動のため、利用者からの評価は難しいが、相談活動については、来談者数、最終数及び最終時の状態(改善につながったか否か)によって客観的に評価している。さらに、評価指標の一つに「同一の関係機関(病院等)から紹介される来談者の率」を他機関(利用者)からの信頼度・評価指標として、相談担当者会議において年度ごとに再紹介率の増減を基に現状分析や改善点の検討を行っている(表5)。第2に大学院文学研究科臨床人間学専攻が日本臨床心理士認定協会指定大学院(第1種)であることから、認定協会による6年ごとの指定継続審査及び審査通過後3年目に実地視察が行われている。2010年に実地視察ではA評価と高い評価を得たものの、改善点も指摘され、担当者会議や運営委員会で問題点を検討し、年度計画等で改善を図った結果、2012年度には指定継続審査を通過できた【8-35-7】。また、10周年記念行事については、行事の内容について参加者にアンケート調査を行った。このように適切な検証体制のもとで改善を行っている。					8-35-7 2014年度明治大学自己点検・評価報告書(大学評価ホームページにて冊子と同様の内容を公開) 8-35-8 平成21年度大学院指定専攻コース実地視察評価について、大学院研究科専攻指定継続承認について(財団法人日本臨床心理士資格認定協会)《既出4(4)-1-26》 8-35-9 明治大学心理臨床センター開設10周年記念行事アンケート結果《既出1-35-3》

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第9章 管理運営・財務 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。						
a ●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	心理臨床センターの事務組織がセンターの活動にとって有効に機能すると同時に、教学組織との有効な連携を取ることを方針とする。					
(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか						
a ◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	「心理臨床センター規程」、「心理臨床センターの心理相談に関する要綱」、「心理臨床センターの心理相談にかかわる運用内規」【9-35-1】【9-35-2】【9-35-3】に基づいた運営を行っている。また、センター長の権限と責任は、「心理臨床センター規程 第5条」において定められている。 センター長は、本学専任教授の中から、運営委員会の意見を聴いて、学長の推薦により、大学が任命することが「心理臨床センター規程 第5条」において定められており、2年の任期ごとに運営委員会で協議を行い、学長に意見を伝え、学長による推薦により任命されている。					9-35-1 明治大学心理臨床センター規程《既出1-35-1》 9-35-2 明治大学心理臨床センターの心理相談に関する要綱 9-35-3 明治大学心理臨床センターの心理相談にかかわる運用内規
(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか						
a ●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。	心理臨床センターの事務は、文学部事務室が行うことになっており、庶務事項のひとつとして担当している。心理臨床センター専従の事務取扱としては、短期嘱託職員が3名(延べ1名分)、また、専任の相談員として採用された1名は職員枠での採用であり、相談業務以外に事務取扱についても携わっている。企画・立案については、センター長が中心となりとりまとめ、年度計画書は運営委員会で決定されるが、その際には専任相談員が事務職として資料等作成及び運営委員会の補佐を行っている。専任の事務職がないため、臨床心理士である専任の相談員が事務も兼ねる必要がある。この状態は大きな負担となり、本来の相談業務に支障を来す危険性もある。 センターでは相談者の受付対応、相談スケジュール管理を短期嘱託員3名が担当している。心理的問題を抱える相談者の対応(特に第一次的対応)という重要かつ難しい業務にもかかわらず、これまで専門的知識がない職員が担当していたが、2014年度はうち1名を臨床心理士有資格者を採用することができた。また、延べ1名の勤務体制となるため、短期嘱託員が休暇を取るのが困難な状況もある。 今後、文学部事務室内での業務分担を検討し、将来の早い時期に、センターの専任の事務職員を配置することが課題である。	・庶務を文学部事務室が担当することにより、学部事務室による支援を得ることができている。 ・専任相談員1名は、職員の立場でもあり、運営委員会及び相談担当の打合せである担当者会議双方の出席が可能であり、センターの運営について十分に理解することができ、企画・立案に積極的に携わることができる。	・短期嘱託の待遇では受付担当職員に心理学の専門的知識を持った職員を採用することが難しい。 ・専任職員が相談業務と運営事務を兼務しているため、相談活動や院生指導の時間が十分取れない状況がある。	・受付担当職員として、心理学の専門的知識を持った職員を採用できるように、年度計画で策定していく。	将来的には事務専従の専任職員が運営業務を担当できるように年度計画などで検討を進める。	
(4) 事務組織の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか						
a (有効性、検証システムと改善状況) ●事務職員の資質向上に向けた研修などを行うことによって、改善につながっているか。	専門相談員である専任スタッフ(1名)は、学内の研修や職場研修などへ参加している。また心理臨床センター専従の事務取扱の短期嘱託職員(3名)は、スタッフ会議への参加や、学内の嘱託職員の研修への参加などを行っている。しかし、契約期間の制限により、知識・経験の蓄積とその継続が難しい状況にある。 センターの専任スタッフ(1名)は学内組織上、事務職員であるが、センターの相談業務の中心を担う専門職員(臨床心理士)でもあり、学会出張などの研修機会を与えられている。しかし、事務職員としてのスケジュールが過密であるため、事実上、学会出張等研修の機会を十分行使することができない。					

2014年度心理臨床センター 自己点検・評価報告書

第10章 内部質保証

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		根拠資料									
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	Alt+Enterで簡条書きに								
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果しているか																
a	◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	心理臨床センターの活動の現状と長所、問題点について適切な把握がなされ、今後の改善方策が有効に立てられること。 ※① 評価に関する委員会等の設置 (名称, メンバー, 年間開催回数) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th>委員会等の名称</th> <th>主なメンバー, 人数</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心理臨床センター自己点検・評価委員会</td> <td>担当者会議が兼務している</td> <td>隔週月曜日</td> </tr> <tr> <td>外部評価委員会</td> <td>運営委員会が兼務している</td> <td>2014年6月6日</td> </tr> </tbody> </table> ②評価報告書等の作成, 公表 ・2014年度心理臨床センター自己点検・評価報告書 ホームページで公表 ・心理臨床センター活動報告【10-35-1】を紀要「明治大学 心理臨床学研究第11号」に公開予定	委員会等の名称	主なメンバー, 人数	開催日	心理臨床センター自己点検・評価委員会	担当者会議が兼務している	隔週月曜日	外部評価委員会	運営委員会が兼務している	2014年6月6日	センターの活動状況は、来談者数など、客観的な評価しやすいデータの形で学事記録やセンター紀要【10-35-1】において公表されている。				10-35-1「2013度活動報告」(紀要「明治大学 心理臨床学研究第10号」(編集中)掲載)
委員会等の名称	主なメンバー, 人数	開催日														
心理臨床センター自己点検・評価委員会	担当者会議が兼務している	隔週月曜日														
外部評価委員会	運営委員会が兼務している	2014年6月6日														
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか																
a	●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	全学的な自己点検・自己評価のシステムに基づいて、多様な項目について自己点検・自己評価を行っている。2004年度までは、心理臨床センターは文学部の枠の中で行っていたが、2005年度からは独立に行うことになった。自己点検・評価の項目について担当者会議で協議を行い、その内容について運営委員会において検討を行っている。その改善策についても検討し、年度計画等に活かすことで、自己点検・評価を改革・改善につなげるシステムを確立している。前回の外部評価の際には、外部評価者の中に臨床心理学の専門家がいたため、センターの活動状況について一定の適切な評価がなされた。また、前回の外部評価結果は、センターの施設の充実を方向づける学内の検討を促す形で活用されている。さらに、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修は日本臨床心理士認定協会指定大学院(第1種)であり、センターはその臨床実習機関として位置づけられており、認定協会により6年ごとに指定継続審査及び3年ごとに実地視察が行われている。2010年に実地視察、2012年度には指定継続検査が行われたが、この評価も学内の検討を促す形で活用されている。	・日本臨床心理士認定協会による2010年に実地視察ではA評価と高い評価を得たが、同時に改善点も指摘された。それをもとに、年度計画等で改善を図り、2015年度に予定されている拡張工事により、院生研修室を設置することができ、外部評価における指摘が、センターの実情に対する大学の理解を促進した。	・今後予定されている日本臨床心理士認定協会による実地視察に向け、前回指摘の改善点のうちまだ改善されていない「来談者の導線」について改善する必要がある。		・来談者の導線について、年度計画で策定すると同時に関係部署と調整して改善していく。										
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか																
a	●PDCAサイクルを回すための、Check(点検・評価)およびAction(改善)の具体的内容・工夫 <参考:以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	心理臨床センターの活動状況は、来談者数、最終数及び最終時の状態(改善につながったか否か)によって客観的に評価することが可能であり、来談者数については様々な機会に学内外に公表している。また、さらに詳しいデータを毎年度刊行される紀要【10-35-1】に掲載している。また、来談者に評価を求めることは、心理相談の性質上困難なため実施していない。 心理臨床センターに来談者を紹介する精神科クリニックなどの他機関が次々と現れ、社会的な認知、地域におけるネットワークへの位置づけが次第に進んでいる。心理臨床センターにおける学生の臨床心理実習の充実には志願者の大学院選択の際の重要な要因となり、志願者は毎年12～14倍となっている。社会的貢献の点でも、大学教育的観点からも、センターは本学の特色ある機関と認知されつつある。	・来談者数の増加、最終数、外部関係機関からの紹介ケース数、大学院志願者数の推移について、担当者会議及び運営委員会において検討している。													

表1 個人心理面接 年間面接回数

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
面接回数	250	1405	1823	2023	2532	2456

年度	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
面接回数	2417	2652	2811	3014	3403

表2 大学院生臨床実習状況

2005年		2006年		2007年		2008年		2009年	
陪席	担当	陪席	担当	陪席	担当	陪席	陪席	担当	担当
18	183	53	377	35	317	63	18	183	744

2010年		2011年		2012年		2013年		2014年	
陪席	担当								
32	626	48	761	62	827	58	828	62	862

表3 相談料収入

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
相談料	976,450	4,852,250	6,872,000	7,037,350	8,683,906	8,064,900

年度	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
相談料	8,418,250	8,764,850	9,567,850	10,401,000	11,375,060

表4 臨床心理士資格試験合格者数(2007年度～2013年度)

年度	修了者数	受験者数	合格者数	合格率	合格率全国平均
2007	11	11	9	82%	69%
2008	9	11	11	100%	66%
2009	9	9	7	78%	62%
2010	7	9	9	100%	61%
2011	7	6	5	83%	61%
2012	9	11	11	100%	59%
2013	10	10	9	90%	62%
2014	10	11	10	91%	60%
計	72	78	71	99%	

表5 個人面接紹介元

来談経路		件数	計
専門機関	医療機関	107	157
	スクール	28	
	福祉関係	20	
	その他の機関	2	
知人	知人・家族	38	38
学内	スタッフ	13	19
	学内関係者	6	
広報	ホームページ	47	55
	広告・看板	8	
その他	再来	7	7
総計		275	276

表6 集団療法 年間参加人数

年度	2004年	2005年	2006年	2007年
教員サポート・グループ	64	76	70	54
教員コンサルテーション	32	146	117	74
サイコドラマ・グループ			172	189
施設心理職員グループSV				
施設職員コンサルテーション				

年度	2008年	2009年	2010年	2011年
教員サポート・グループ	26	70	68	43
教員コンサルテーション	51	70	68	55
サイコドラマ・グループ	186	242	235	232
施設心理職員グループSV				28
施設職員コンサルテーション				22

年度	2012年	2013年	2014年
教員サポート・グループ	87	44	34
教員コンサルテーション	56	27	26
サイコドラマ・グループ	188	266	
施設心理職員グループSV	70	38	19
施設職員コンサルテーション	33	23	35